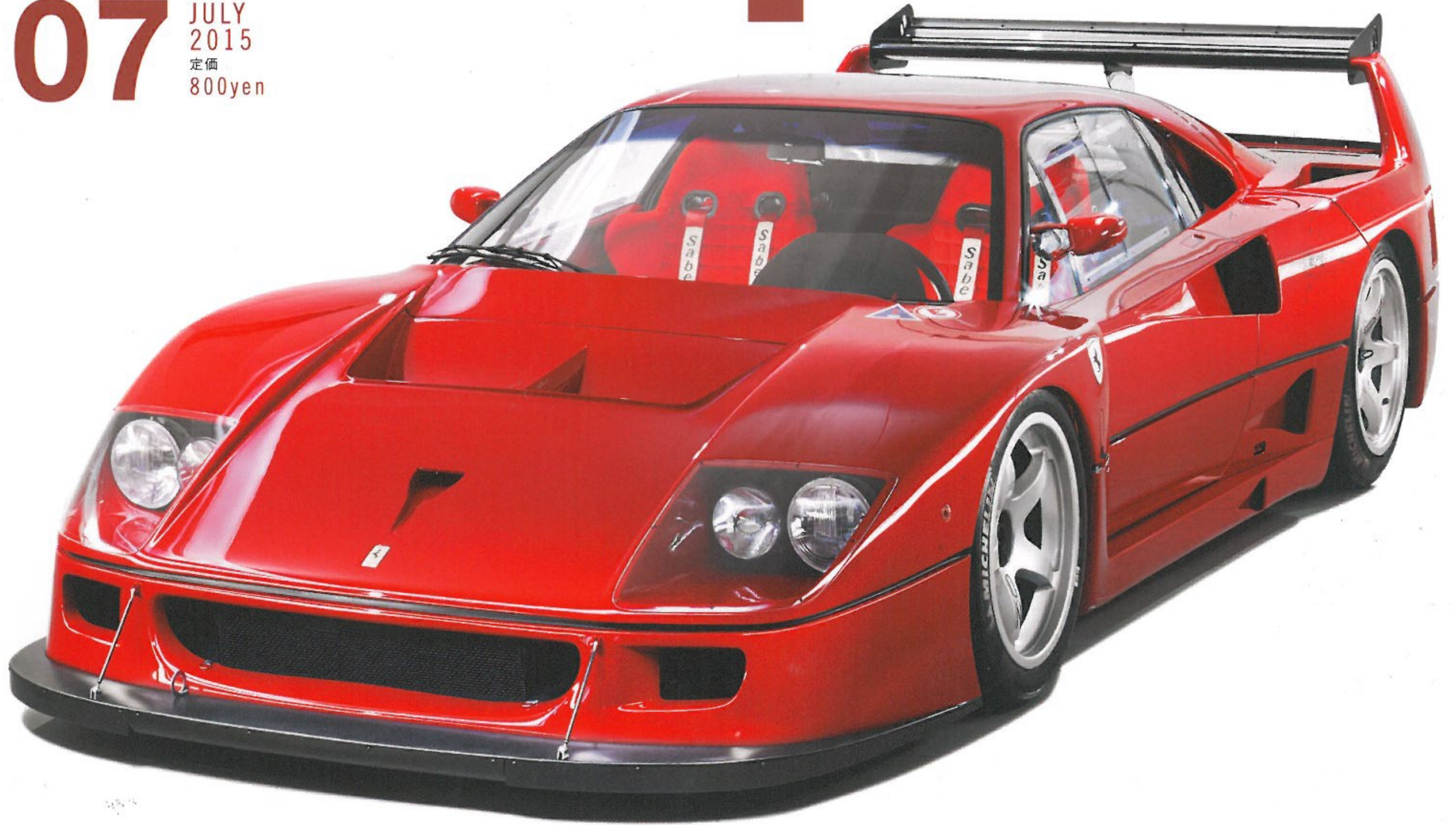


HIGH FASHIONED RIDES SOCIETY

tranSpeed

tranSpeed 2015年7月号(6月10日発売)

07 JULY
2015
定価
800yen



ターボか 否か。

Special Big Issue

V8 Ferrari

Mid-engined Ferrari
It's not a still life.

NEWGEN. SUV & MUSCLE!

ランボルギーニ・ウルス
シボレー・カマロ

CAR ADVENTURER

沖縄・伊江島空港を完全封鎖!
マクラーレンP1で奇跡の300km/h

DUBAI STREET

超・エクスクルーシブ軍団、
ツインリンクもてぎを完全制圧

IMPRESSIONS

ポルシェ 911 GT3 RS
メルセデス AMG GT
ベントレー GT スピード
ジャガー XE & F タイプ
レンジローバー SVR

JAPAN PREMIERE

1360馬力の性能を鈴鹿で試す
ケーニグセグ One:1



ENERGY MOTOR SPORT

BMW F30 EVO-30.1 & i8

[Source] ENERGY MOTOR SPORT
Tel.03-3707-3800 (カレッジエフリン世田谷)
Tel.072-339-1760 (カレッジエフリン大阪)
<http://www.energy-ms.jp/>

BMW 3 シリーズ

受け継いだ者と

最新作はF30用エアロキット



半ば定番化といえるフロントデイトライト周りの造形も、このモデルで更に奔放さに磨きを掛けて進化させてきたエナジーF30。カーボンとFRPを巧みに組み合わせた造形は見事だ。こちらはフルオプションを装備したコンプリートデモ車両だが、もちろんパーツ単体の購入も可能。

- FRONT BUMPER KIT CARBON EDITION ¥380,000
 - FRONT OVER FENDER KIT ¥120,000
 - SIDE SPOILER KIT ¥240,000
 - REAR BUMPER KIT CARBON EDITION ¥300,000
 - REAR OVER FENDER KIT ¥120,000
 - TRUNK SPOILER ¥80,000
 - CARBON BONNET ¥280,000
 - SMOKE TAIL LAMP COVER ¥34,000
 - 片側10灯DAYLIGHT ¥68,000
 - WHEEL: ENERGY INDIVIDUAL TYPE2
F=20×8.5J ¥140,000/
R=20×9.5J ¥150,000
- ※価格はずべて税別表示



①カーボンボンネットはダクトを装備。FRP製も用意する。②ダウンフォース効果の高いトランススポイラー。③特にリヤバンパーは塗り分け効果も相まって独特の造形の妙が楽しめるセクションだ。④ホイールはオリジナルのENERGY INDIVIDUAL TYPE2。あえてセダンにオーバーフェンダーを設定した辺りもモデラーの意図が透けて見えてくる嬉しいポイントだ。



からi8へ

受け継ぐ者

tranStyle02

国内シーンの中でも孤高のBMWチューナーとしての存在感を大いに発揮しているエナジーモータースポーツ。最新作となるフルエアロを巻いたF30の傍らにはストック状態のi8が行む。この2台を関連付けることで2016年に向けたエナジーの戦略がおぼろげながら見えてくる…。



i8プロジェクト始動! えうご期待!

開発用として所有しているi8もフォトシューティングに参戦。もちろんフルストックの状態だが、エナジーらしい造形美に溢れたフルコンプリートスタイルを目指すとの事。お披露目は来年のオートサロンを予定している。



技術力がある。特に国産ブランドとしての製品の精密度、均一性は当然高いレベルを要求されるわけで、その点を当たり前のようにはクリアしているのも特筆すべきポイントと言える。もちろんそれはこのF30用も同様で、個体数の多いF30でこれまで以上の独創性溢れるフォルムを打ち出してきたのはその自らの製品性への自信の現れでもあるのだ。

さて、このF30とこれから開発に着手するというi8のランデブー。エナジー最新のデザインとなるF30、いやEVO-30.1のイメージを未だストックのi8に重ね合わせて創造力を働かせれば、彼らが近い将来生み出すであろうエナジー流i8の造形が見えてくるのではないだろうか。今のところはそうやって自らの脳内で楽しみつつ、その登場を待とうではないか。

BMWに特化した純国産チューナーブランド、エナジーモータースポーツ。これまでも幾多のBMWを手掛け、その類いまれなるデザインセンスでシーンに活気をもたらしてくれた同ブランドがi8を手に入れた、という情報を耳にしたのは今年始めた。という事は遂にあのエナジーがi8プロジェクトを始動させようとしているのは想像に難くないわけだが、まずはその前にコレを見てくれ、と言わんばかりに登場したのがF30プロジェクトのフルコンプリートバージョン、EVO-30.1だ。

同ブランドが魅力的な理由の一つに、デザインのオリジナリティとその実現力がある。デザイナーも兼任する代表が作り出すフォルムには国産コンストラクターが陥り易い「機能性第一」という強迫観念的な思想が一切ない。そういった堅苦しい考え方は生まれにくい、キャンパスとなるストックライン上に自由自在に描き込んだのが一目見て取れる奔放かつクルマに馴染んだ独創的なデザインだからこそ人々は魅了されるのだ。しかし、それだけ奔放であればあるほど、言うは易く行は難し。FRPやカーボンといったマテリアルを組み合わせてこれだけ複雑な造形を組み立てるのはかなりの